

## 第42回 卒業式 式辞

穏やかな温かさにもまれる日が多くなり、春の訪れが感じられます。

今日の良き日ここに第42回大阪府立北千里高等学校卒業式を挙行できますことを、心より嬉しく思います。

卒業生の皆さん、ご列席いただいております保護者の皆様、本日はご卒業、誠におめでとうございます。保護者の皆様にはこれまで本校の教育活動に多大なるご協力ご支援を賜り、誠にありがとうございました。高いところからではございますが、厚く御礼申し上げます。

さて、ようやく卒業の日を迎えたわけですが、皆さんの在学中は常に新型コロナのことが頭から離れず、自由なようで自由でない、制約のかかった中での高校生活でしたね。楽しいはずのお昼ご飯も黙って前をみて「黙食」しなければならず、思いっきり友達とじゃれあいたいののに、そんな簡単なことができない日々でした。言い換えるとそれは、普通のこと

が普通にできることの喜びを教えられた日々でもありました。そのような中、皆さんとともに、全ての行事ができたことは、私にとっても本当に幸せなことでした。皆さんの楽しそうな笑顔がどれだけ勇気を与えてくれたことかしれません。

みなさんは「自分たちのための行事にするんだ」という意気込みでやり切りましたね。

1年以上前から教員と生徒代表で準備を重ね、最後は「よし、まかせたぞ！」という形で完全にみなさんにバトンタッチできたことは本当に本当に素晴らしいことでした。

修学旅行もだんだんと感染者が増えつつある中、不安いっぱいの出発でしたが、終わってしまえば、私の心のスクリーンに一面に広がっているのは、皆さんと一緒に見た満天の星空です。生涯忘れることのない景色となりました。

社会に踏み出す皆さんに、本日、私からは「人生万事塞翁が馬」という言葉を贈りたいと思います。「人間万事塞翁が馬」ともいいます。

その意味は中国の古いお話がもとになっています。

ある老人が馬を飼っていたのですが、その馬が逃げだしてしまいました。とても落胆していたところ、ある日、その馬が優れた別の馬を連れて帰ってきたのでした。老人はたいそう喜びました。今度は老人の子供がその馬から落馬して足を折ってしまいます。しかし、そのおかげで兵役を逃れて命が助かったというものです。

その時には不幸に思えたことも、あとから考えるとそのことがあったからよいことが起こったということもあるし、すごく幸せだと思っていたことが不運につながるということもあり、世の中に起こることはよいことも悪いこともあります。一つ一つをあるがまま受け入れ、前を向いて歩むことが大切であるということを教えてくれるものです。特に、

苦しい時、悲しい時にこそ、その状況をどのようにとらえるか、心の持ちようが重要ということだと思います。「真っ暗闇のトンネルにも必ず出口があると信じ、前向きに行動するのか、逆に、うまくいかないこと、失ってしまったことばかり考えて、失望や悲しみの中に生きるのか、あなたはどちらを選びますかということだと思います。

すぐには気持ちが切り替えられないことも起こるかもし

れません。しかし、時間をかけてあるがままを受けとめ、前を向いて歩いていく「心の持ちようが大切」です。そうすることによって「新たな一歩、新たなチャンスにつながる」ということを教えてくれる言葉として、わたくしの心に刻んでいるものです。

みなさんはまだまだ自分自身がどのような存在なのか、いったい何者なのか、自分探しの真っ最中です。

人間は一人では弱いもので、特につらい時に支えとなってくれる人がいるかどうか、頑張れるかどうかにかかってくるように思います。

あなたを励ましてくれる人、

あなたのあるがままを受けとめてくれる人、

あなたの助けを待っている人、

あなたとかかわることによって変わっていきたいと思う人が世の中にはきっといます。そんな「だれか」を探すこともこれからの皆さんの人生にとって大切なことですね。きっとその助けに、北千里高校の仲間が、本校での経験が役に立つのではないかと信じています。

ここ数年、地震や新型コロナなど普通の高校生活を送ることができず、毎年３年生は新たな課題を背負っていますが、いつもその課題を見事に解決していただきました。

まさに「人生万事塞翁が馬」  
非常に困難な状況にあっても知恵を出し合って、これまで以上に仕上げてくる北千里生の底力はきっとまた大きく花開くと信じています。

皆さん一人一人が自分らしく力を発揮されることを楽しみにしています。

３年間で大きく成長された４２期生のみなさん

「 輝く未来に向かって いってらっしゃい 」

令和４年３月１日

大阪府立北千里高等学校      校長 西山 兆子